神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ通信

第9号
2007年12月20日発行
年4回発行
神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター
〒662-8505
西宮市岡田山4-1
電話・FAX：0798-51-8584

子どものための コンサート・シリーズ
第十八回　スペシャル・コンサート

モーツァルト《トルコ行進

秋晴れに恵まれた十月二十日（土）、本学講堂で「子どものためのスペシャル・コンサート ～五つの弦楽器とピアノのゆかいな音楽会～」（子どものためのコンサート・シリーズ第十八回）を開催しました（午後二時～、来場者数三百六十五名）。

今回のコンサートは、いずれもプロの音楽家として多方面でご活躍の六名の方にご出演頂いて、弦楽器のファミリー（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）の紹介とピアノ五重奏に至るアンサンブルをたっぷり楽しんで頂こうという趣向で、スペシャルの名にふさわしい豪華なものとなりました。ご出演下さったのは、釋伸司（ヴァイオリン）、菊本恭子（ヴァイオリン）、高村明代（ヴィオラ）、雨田一孝（チェロ）、南出信一（コントラバス）、佐々由佳里（ピアノ）の六氏で、この内、菊本氏は本学卒業生、南出氏、佐々氏のお二方は本学音楽学部で学生の指導にも当たっておられます。

コンサートの幕開けは、モーツァルト《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第一楽章。五人の弦楽器奏者が登場して、きびきびと演奏します。

楽器の紹介

司会の南出氏がマイクを握り、コンサートについてお話をした後、楽器紹介のコーナーに入ります。各楽器の特徴について、短いお話とその特徴がよく分かる曲を次々と演奏して紹介していきます。まずピアノでドビュッシー《子供の領分》から〈グラドゥス・アド・パルナッスム博士〉。次に菊本氏のヴァイオリンでゴセック《ガヴォット》。続いてヴィオラで新井満《千の風になって》。聴衆がぐーっと惹き込まれていきます。さらにチェロでトゥルニエの《秋の散歩道》。最後にコントラバスでサン・サーンス《動物の謝肉祭》から〈象〉。同じ弦楽器でも、大きさが大きくなるにしたがって音が下がるだけでなく、音の色合いが変わっていきます。

次に、同じ旋律を違う楽器で次々と弾いて聞き比べてもらおうという趣旨で、アメリカ民謡《森のくまさん》を南出氏の編曲で演奏します。こうすると楽器の持ち味や個性の違いがよく分かります。

今度は弓ではなく、指で弦を弾く方法（ピチカート奏法）を紹介してアンダーソン《プリンク・プランク・プルンク》を演奏。途中で楽器をくるくる回したりといった楽しい演出が盛り込まれた曲で、会場からも笑いが起こります。

続いて、服部正《ラジオ体操第一》を弦楽五重奏編曲で。「舞台に上がって一緒に体操をしたい人はいますか？」と募ったところ、二十人近い子どもたちが舞台に上がって並び、弦楽五重奏の伴奏でラジオ体操をしました。

子どもたちと
ラジオ体操

妙技を見せる曲としてよく知られるリムスキー＝コルサコフ《熊蜂は飛ぶ》を、ここでは弦楽五人で分け合って演奏。途中で大きな蜂が実際に登場する場面もあって、最後は丸めた楽譜で司会者に退治されてしまいます。

次のハイドリッヒ《ハッピバースデー変奏曲》では、まず今日がお誕生日というお子さんを舞台に上げて真ん中に座ってもらってテーマを演奏。その後、モーツァルト風、ウィンナ・ワルツ風、アメリカのジャズ風、タンゴ風、そしてハンガリー風と個性豊かな変奏を展開していきます。よく知っている旋律がいろんな装いで立ち現れてくるのは新鮮です。タンゴ風のところでは会場から自然に手拍子が起こりました。

前半の最後は、南出信一作の《動物数当て音楽クイズ》。モーツァルトの《フィガロの結婚》の中の有名なアリア〈もう飛ぶまいぞ、この蝶々〉の旋律を枠組みに、その間に〈ちょうちょ〉〈メリーさんの羊〉〈とんぼのめがね〉といった動物がテーマになった曲がたくさん織り込まれています。これらの歌を聞き取って、何種類の動物が出てくるかを当てるクイズです。正解者の中から抽選で六名に景品が当たるというので、みんな真剣に聞いて解答用紙に書き込んで寄せてくれました。

十五分の休憩をはさんで、後半はシューベルト作曲のピアノ五重奏曲《鱒》より第四楽章。ピアノを含む各楽器の掛け合いが緊張感に満ちてスリリングで、聴き応えがありました。

次は日本の歌から、山田耕筰《赤とんぼ》と本居長世《通りゃんせ》を弦楽合奏でしっとりと聞かせます。

服部良一《山寺の和尚さん》では、会場からお子さん一人に舞台に上がってもらって木魚を叩くソリストを務めてもらい、それに合わせて弦楽五重奏が演奏します。木魚が遅くなってくると合奏も次第に遅くなって、会場からはどよめきが起こります。会場と舞台が一つになっていることを強く実感させてくれた場面でした。

服部良一《山寺の和尚さん》

ここでピアソラの《リベルタンゴ》。一転して大人の雰囲気で、ぐっと聞かせます。

そして《ディズニー・メドレー》。おなじみの楽しいメロディーにまた会場から手拍子が起こりました。

モンティ《チャルダッシュ》ではソリストの釋氏が客席後方から登場し、お客様に迫りながら演奏して大いに受けました。長い長い間合いと緩急自在のテンポの変化にもかかわらず、ピアノや他の楽器がぴったりとついていくのは見事でした。

モンティ《チャルダッシ

プログラムの最後はモーツァルトの《トルコ行進曲》。本来はピアノのソロ曲ですが、ここでは南出信一編曲によるピアノ弦楽五重奏曲版が演奏されました。ひと味違ったすてきなトルコ行進曲で締めくくりとなりました。

さて、お待ちかねのクイズの正解と抽選会です。景品はかわいい縫いぐるみに、ジャンボ・パックのお菓子、それに神戸女学院のカレンダーです。何と、親子で抽選に当たったラッキーなご家族もありました。

最後に〈となりのトトロ〉より〈さんぽ〉を会場の皆様に歌って頂いてお開きとなりました。

終演後は恒例の楽器体験、今回はヴァイオリン、チェロとコントラバスの

って、コントラバスが一番人気だったようです。

今回のコンサートは特にお客様の評価も高く、喜んで頂けた様子です。その一番の功労者は人選、選曲、編曲、そして司会までこなして下さった南出氏であり、またご出演の演奏者の皆さんです。

また受付や舞台裏のスタッフたちがゆったりと余裕をもって丁寧に役割を果たしている姿に、今昔の違い、そして近年のレヴェルアップをまざまざと感じました。

なお、評判となったかわいいイラスト入りのチラシとプログラムは、アウトリーチ・センター事務スタッフ井本彩子のデザインです。今後にますますご期待ください。

（津上智実・記）

体験でしたが、司会の南出氏のお話しのおもしろさも手伝

宣伝用チラシ

アウトリーチ実習報告

野木病院

七月二十八日（土）、野木病院（明石市魚住町長坂寺一〇〇三―一）の「サマーコンサート」に出演しました（声楽・奥田敏子、ピアノ・杉原真弓）。

今回は、様々な国、様々な作曲家による歌の数々を楽しんでいただけるようにとプログラムを考えました。

まず、岡野貞一作曲、高野辰之作詞の三曲《ふるさと》、《朧月夜》、《もみじ》を演奏し、日本の歌を季節ごとに巡りました。ヨーロッパの作曲家からは、バッハ／グノー、シューベルト、マスカーニそれぞれの《アヴェ・マリア》を演奏しました。今度は、音楽に合わせて肩たたき。「もしもし、かめよ、かめさんよ～」と歌に合わせて、両手で肩をトントントントン、体を動かしてリフレッシュしました。その後、全員で《ふるさと》を歌いました。そして最後に、中田喜直《たんぽぽ》、《霧と話した》、《悲しくなったときは》、《花の街》の四曲、そしてアンコールでショパン《練習曲　作品二十五―一》を演奏し、コンサートを締めくくりました。

聴いて下さった皆さんの雰囲気がとても温かく、時々口ずさんでいらっしゃったのが大変うれしかったです。また、患者さんたちと近い距離での演奏は、皆さんの反応をじかに感じることができてとてもよかったです。

このような機会を作って下さった野木病院の皆様、また、当日ご来聴下さいました皆様、本当にありがとうございました。

（奥田敏子・記）

西宮名塩伝道所

七月二十九日（火）、日本基督教団・西宮名塩伝道所（花の峯教会）の「初夏のミニ・コンサート」に出演しました（声楽・山本奈津子／ピアノ・杉原真弓）。

聴衆と演奏者の垣根をなくすため、会場全体で一緒に口ずさむことのできる曲をなるべくたくさん演奏するよう心がけました。

《ふるさと》、《夏は来ぬ》など聞き覚えのある日本の曲の後は、異なる三人の作曲家が書いた《アヴェ・マリア》の聞き比べをしました。その後、伝道所の方々からのご要望で、讃美歌一〇七番《まぶねのかたえに》、讃美歌二八五番《主よみてもて》を一緒に歌いました。コンサートの終盤には、中田喜直作曲の《たんぽぽ》、《霧と話した》など、日本歌曲をしっとりと歌いました。

七月の終わりということで会場となった室内はかなり暑かったのですが、みんなが一緒になって楽しく音楽を作ることができました。

演奏終了後には「間近に生の音楽に触れることができ感動しました」「今まで勉強してきたことを真摯に伝えようとしている姿に好感が持てました」とのお声をいただきました。

演奏させていただいた私たちも、「アンコールをいただいたのに準備をしていなかったので、今後は数曲用意しておきたい」「これからは『大人のためのコンサート』にも挑戦してみ

たい」など、今後のコンサート作りに必要なことを発見できた、とても有意義な実習となりました。

コンサートの準備等、お力を貸して下さった花の峯教会の皆さま、貴重な機会をどうもありがとうございました。

（杉原真弓・記）

神戸愛生園

八月二十一日（火）、神戸愛生園（神戸市須磨区友が丘一―一）のサマーコンサート「タイムスリップコンサート～思い出の曲はありますか～」に出演しました（声楽・松本真奈、ピアノ・今中百合、井上香菜）。

年齢層の幅広い入居者の方たちに聴いていただくコンサートなので、《ふるさと》《夏の思い出》などの唱歌や、昭和の歌より万城目正《りんごの唄》、荒井由実《やさしさで包まれたなら》、ピアノ連弾で大野雄二《ルパン三世》、平成の歌より桑田佳祐《ＴＳＵＮＡＭＩ》、森山良子《涙そうそう》まで、様々な時代の夏の思い出を味わい楽しんでいただけるようなプログラムを考えました。

会場には入居者の方やデイサービスに来られている方、職員の皆さんが聴きに来て下さいました。コンサートはアンダーソン《タイプライター》（ピアノ連弾）で始まりました。始めは少し緊張しましたが、時代を追って演奏していくにつれて緊張もほぐれていきました。皆さんが一緒にロずさんだり体を揺らしながら笑顔で聴いて下さって、共に音楽を感じることができて、私達も楽しく演奏できました。コンサートの最後では鍵盤ハーモニカも使って中村八大《上を向いて歩こう》、《明日があるさ》を演奏、一緒に歌っていただきました。

終演後、「ありがとう」「外へ聴きに行くことができないのでまた来て下さい」と声をかけていただいたことはとてもうれしく、このようなお言葉が演奏者の励みになっていくのだなあと実感しました。また、職員の方からも普段の皆さんの様子などをお聞きして、「慣れてくるともっと近くに感じられるようになりますよ」とアドバイスをいただき、これからも皆で楽しめるコンサートにできるように工夫していきたいと思いました。

神戸愛生園の皆様、ありがとうございました。

（松本真奈・記）

大阪府立成人病センター

九月十一日（火）、大阪坂府立成人病センター（大阪市東成区中道一―三―三）の院内コンサートに出演しました（声楽・松本真奈、奥田敏子、ピアノ・杉原真弓）。

今回は、テーマを「歌おう！ 愛の歌」とし、人間がもつ様々な愛の気持ちを歌で表現しようと、多くの曲に取り組みました。

プッチーニの歌劇《ジャンニ・スキッキ》より〈あぁ、私の愛しいお父様〉、ヴェルディの歌劇《リゴレット》より〈慕わしい人の名は〉などの耳馴染みのある独唱曲に加え、モーツァルトの歌劇《フィガロの結婚》より〈なんとやわらかな西風が〉、《四季の歌メドレー》、といった二重唱も取り入れました。

三人揃って練習する時間をとるのが大変でしたが、コンサート終了後には多くの方が話しかけてくださり、反省点や良かった点を知ることができてこれからの励みになりました。本番中は、ピアノの台が壊れたり譜面台が倒れるなどのハプニングが続いてしまいました。しかし、本番は何が起るかわからないもの。その事に対していかに冷静に対処していくのか、もっと経験を積んで何事にも動じないようになりたいです。

（松本真奈・記）

神戸市立医療センター中央市民病院

九月十三日（木）、神戸市立医療センター中央市民病院（神戸市中央区港島中町四―六）の院内コンサートに出演しました（声楽・松本真奈、フルート・片岡朗子、ピアノ・森理菜、中須賀真弓）。

病院に入院、通院されている患者さんに体と心をほぐしていただき、音楽の楽しさ美しさを知っていただけるようにと、《夏の思い出》、R・ラヴランド／B・グラハム《あなたが力づけてくれるから》、《ショパンメドレー》、プッチーニの歌劇《ジャンニ・スキッキ》より〈あぁ、私の愛しいお父様〉などを演奏しました。また、皆さんに参加もしていただけるように、クイズやストレッチなどもプログラムに組み込みました。

会場には入院されている患者さんや付き添いの方がたくさん聴きに来て下さいました。コンサートのはじめは表情の固い方もいらっしゃいましたが、A・ギャニオン《愛に包まれて》のピアノ演奏を聴きながらストレッチをしていただくと、その後のプログラムが進むにつれて皆さんの表情がやわらかくなっていったように思いました。

また、作曲家ショパンの話やフルートの話に興味を持って聴いて下さったり、中村八大《上を向いて歩こう》を一緒に歌ったときには皆さん楽しそうに口ずさんでいらっしゃって、こちらが働きかけるほど音楽にのってくださったように思います。

じっとしたままだった方が音楽にあわせて体が揺れているのを見たときは、音楽の力の大きさを再確認しました。涙を流しながら一生懸命歌っていらっしゃる方、暖かい拍手を送って下さる方たちにも励まされました。そして、ただ演奏したり原稿を読んだりするのではなく、お客さまを見て、伝えることがとても大切なことだと改めて感じました。

神戸市立医療センター中央市民病院の皆様、ありがとうございました。

（森理菜・記）

兵庫中央病院

九月十九日（水）、兵庫中央病院（兵庫県三田市大原一三一四）の「院内コンサート」に出演しました（フルート・片岡朗子、能登由衣子、ピアノ・森理菜、中須賀真弓）。

前回の実習（十三日・神戸市立医療センター中央市民病院）とほぼ同じメンバーだったためその反省をふまえ、また、事前に「高齢の方が多く、動けない方も多い」とお聞きしていたので、音楽を通して少しでも心と体を癒していただこうと構成しました。

最初の曲からピアノにあわせて歌って下さる方や、毎回大きな拍手を下さる方、握手を求めて下さる方もいて、私たちも演奏しながら大変うれしく思いました。特に、患者さんの間に入っていってのフルート演奏《上を向いて歩こう》では、目の前での演奏に喜んでいただけたようでした。

リハーサルでは慣れない電子ピアノや音響に戸惑いましたが、本番では前回の実習よりも進行やお話も余裕を持ってスムーズに行うことができました。

終演後は患者さんが退室されるのを出演者でお見送りさせていただき、「素敵な音楽にふれることができてよかった、ありがとう」「一緒に歌うことができてうれしかったです」などとお声をかけていただきました。

どのような会場の状況にも対応できるよう、これからも実習を重ねていきたいと思います。

（森理菜・記）

こやの里特別支援学校遠足

十月十九日（金）、本学ジュリア・ダッドレー館大会議室にて「こやの里特別支援学校訪問教育部「秋のコンサート」を行いました（声楽・松本真奈、谷田奈央（賛助出演）、フルート・片岡朗子、ピアノ・山本佳苗）。

今回は、普段なかなか外に出ることができないけれど音楽が大好きだという皆さんのために、旅をしながら色々な音楽を楽しんでもらえるよう、プログラムを組み立てました。

前年度に続き二回目となる今回は、小・中・高の様々な学年の六人の生徒さんが、先生、保護者の皆さんとともに参加、にぎやかなコンサートになりました。

まず、H・アーレン《虹の彼方に》、そしてJ・デンバー《カントリー・ロード》を歌いながら音楽の旅を進めていきました。そして秋の国に着いた私達は《赤とんぼ》、《虫の声》を演奏しました。《虫の声》では、マラカス、タンバリン、鈴を曲に合わせて生徒さんたちに鳴らしてもらいました。楽器を鳴らしている様子はとても楽しそうで、まるでたくさんの虫が鳴いているようでした。

次は、ドヴォルザーク《ユーモレスク》を演奏しながら電車の旅に出ました。ガッタンゴットン電車に揺られながら聴いたあとは、「となりのトトロ」より《さんぽ》をみんなで一緒に歌いました。旅の終わりには、R・ラヴランド／B・グラハム《あなたが力づけてくれるから》を私たちからみなさんにお贈りしました。そして最後に《もみじ》を一緒に歌い、秋のコンサートを全員で締めくくりました。

今回は「旅」という要素を加えたり、赤とんぼ、電車等の絵を描いて準備したり、参加型の部分を設けたりと、こやの里特別支援学校の皆さんに楽しんでもらえるようなプログラムになるよう心がけました。準備が大変でしたが、終わった後の皆さんの表情を見ていると、その大変さを忘れるくらいの大きな力をもらいました。また、「足を大きく動かして喜んでいますよ」などというお話を聴き、本当にうれしかったです。コンサートの運び方や生徒さんとの目線の位置、傍にいくタイミングなど、学ぶことも多くありました。

今回学んだことを生かし、これからの活動につなげていきたいと思います。

（松本真奈・記）

卒業生の活動報告

兵庫県立美術館

兵庫県立美術館（神戸市中央区脇浜海岸通一―一―一）では、以前から「ミュージアムコンサート ～こんなところで音楽が～」と題して、定期的にエントランスホールで演奏会を開催されています。

八月五日（土）、神戸女学院にご依頼を頂いた第一回目は、弦楽三重奏（ヴァイオリン・田原口安代、ヴィオラ・土井茉莉、コントラバス・中村公美）をお届けしました。会場はよく響く吹き抜けのエントランスホールで、美術館へのお客様が足を止めて聴いて下さるだけでなく、コンサートの常連さんもいらっしゃるようです。

プログラムはお客様の様々な年齢層を想定し、アメリカ民謡から日本の歌、モーツァルトのディヴェルティメント、バッハのヴァイオリン協奏曲をジャズ風にアレンジした作品などを演奏しました。普段は本格的なリサイタル形式で開催されることも多いこのシリーズ、最初は客席の雰囲気もずいぶん硬かったのですが、簡単な楽器の説明や演奏者それぞれのお話を入れるとお客様との距離がぐっと縮まったことを実感できました。

次号では、同シリーズでの二つのコンサートのご報告をさせていただく予定です。

（中村公美・記）

松尾楽器ファミリー・コンサート（第一回目～第三回目）

今年の三月からはじまった松尾楽器商会スタインウェイサロン神戸（神戸市中央区磯辺通二―二―十）での「ファミリー・コンサート」シリーズは、地域の方々、特に子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えるために、また気軽にコンサートを楽しんでもらえるよう松尾楽器が企画・主催。神戸サロンショールームにて、本学の学生や卒業生が定期的にこのコンサートに出演しています。今回は、三回のコンサートの様子をレポートします

（寺澤彩・記）

☆三月二十五日（日）

第一回目は三月二十五日（日）に開催され、松川峰子と服部愛のピアノ・デュオでプログラムをお届けしました。初めての開催だったのですが当日は満席になり、乳幼児連れの方もいらっしゃいました。

まず、ピアノ・ソロの魅力を十分に味わっていただこうと、ショパン《アンダンテスピアートと華麗なる大ポロネーズ　変ホ長調　作品二十二》やリスト《メフィスト・ワルツ》を演奏。

後半は、ピアノ・デュオをお楽しみいただきました。チャイコフスキー《くるみ割り人形》ではバレエの写真パネルを展示し、イメージを持って聴いていただけるよう工夫しました。また、チェレスタがオーケストラで初めて使用されたとされる〈こんぺい糖の踊り〉では、チェレスタを松尾楽器さんにお借りし、その音色を披露しました。ピアノとはまた違った音色、響きに子どもたちは興味が湧いたようでした。

「あきない内容でした」「子どもが小さいので不安でしたが、他にも同じように年代のお子さんが来ているので安心した」というお声を聞いて、本当にうれしく思いました。

☆四月二十九日（日）

初夏を思わせる陽気に恵まれた第二回目は、ハープを中心としたコンサートを行いました（ハープ・寺澤彩、フルート・絹田朋子）。

まず初めにアッセルマン《泉》やサルツェード《夜の歌》でハープ独特の響きを、そしてイベール《間奏曲》では、フルートを加えアンサンブル楽器としてのハープの魅力もお伝えしました。また通常オーケストラなどでよく見かけるグランド・ハープだけではなく、アイリッシュ・ハープも取り入れ、アイルランド民謡《庭の千草》などを演奏し、民族楽器としてのハープの側面を紹介しました。演奏の合間にハープの構造や歴史のお話を交えたり、希望された方には楽器に触っていただいたり、より深く音楽を楽しめるよう工夫しました。

会場には赤ちゃんや小さいお子さんをお連れのご家族も多く、「ハープの音色を聴いたことがなかったのですが、楽しかった」「子ども達もずっと耳を傾けていたことに感動した」とのお声を頂きました。

☆七月二十九日（日）

第三回目は、ふたたびピアノ・デュオのコンサートをお届けしました（ピアノ・西崎亜耶、北野真理子）。

前半に、ショパン《舟歌　作品六十》、ラヴェル《ハイドンの名によるメヌエット》、《水の戯れ》のピアノ・ソロ作品を、後半はビゼー《子供の遊び　作品二十》より〈目隠し鬼ごっこ〉、〈馬とび〉、〈小さい旦那さんと小さい奥さん〉、〈舞踏会〉の四曲を一台四手の演

奏でお届けしました。

演奏だけでなく、曲を演奏する前にあらかじめ作曲された背景や、曲の聴きどころを、実演を交えてお話したのがよかったようで、「ただ聴くだけよりもイメージが膨らんで楽しかった」と感想を言って下さった方もおられ、大変うれしく思いました。また、松尾楽器さんが考えて下さった三台のピアノを弾き比べるという企画は、お客様も興味深かったようですし、私達にとっても大変勉強になりました。

次号では、三つのコンサートの様子を報告する予定です。今後もいい形で継続されていくよう頑張っていきたいと思います。

お知らせ

2008 年より、アウトリーチ通信の発行回数が年に 3 回になります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします！

♪ 次号の予告 ♪

11 月 15 日（木）～23 日（金）、英国ロンドン市立ギルドホール音楽院のショーン・グレゴリー先生をお招きしてワークショップを開催、最終日の 23 日（金）には近隣の子どもたちと共に「音で遊ぼう！～子どものための音楽作りワークショップ～」を行いました。

音楽作りって何？ 楽譜が読めないけど大丈夫？ そんな不安も吹き飛ばし、ワークショップ最後に開催したミニ・コンサートでは、みんなで 1 日だけで作り上げた曲を 3 曲も披露！ これって魔法？ いえ音楽です！ その様子は次号でお届け致します！

♪音楽をお届けします♪

「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にすてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…
神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1　TEL＆FAX ： 0798-51-8584
E-mail：outreach@mail.kobe-c.ac.jp　http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編 集 後 記

先生だけでなく、スタッフも走る年の瀬。来年もアウトリーチ・センターをよろしく！（井本）

怒濤の後期が進行中です！ みんなファイトー！（寺澤）

充実の 2007 年でした。皆様もよいお年をお迎えください。（中村）

怒涛の秋でございました。このまま冬を迎えます。旅に出たい…。（南）

みなさんとともに豊かな実りの秋を迎えられて感謝！ これからも一緒にがんばりましょう。（三上）